

『協働のまちづくり懇談会』 会議録

(H26. 8. 7 18:00 ～ 地域交流センターミニホール)

出席者

- ・「市民活動等入門講座」受講生 18 名

- ・ 善岡市長

- ・ 事務局
福士 市長公室課長
齊藤 市長公室課長補佐兼協働推進係長
青野 広報広聴係長
阪口 主事

1. 開 会

福士課長 ～ 皆様、大変お忙しい中、懇談会にお越し頂きまして誠にありがとうございます御座います。定刻になりましたので只今より協働のまちづくり懇談会を開催致します。初めに、開催にあたりまして、善岡市長よりご挨拶申し上げます。

2. 挨 拶

市 長 ～ 皆さん、こんばんは。市長の善岡です。よくお会いする方もいらっしゃると思いますし、恐らく本日初めてお会いする方もいらっしゃるかと思います。私も市長になりまして4年目になります。今年が最後の年、ということになります。私が市長になったとき、一番最初に、協働のまちづくりをどうやって進めていったらよいか、ということで、市民に協働を言う以上は、公務員がまず変わらなくてはいけない、ということで役所内部の改革も進めてまいりました。職員には、各地域の行事には積極的に参加するように言ってきました。まだ不十分なところもあるかもしれませんが少しずつ変わってきていると思います。そして、一年目にまずやらなければならないこととして、超高齢化社会を迎えるにあたり、高齢者の見守り制度を構築しなければならない。これはどこの市町村でもやっていることなのですが、なかなか現実的に機能していない、ということで砂川市では専門の職員2名を配置し、市内の高齢者全世帯を廻ることにしました。地域包括支援センターの協力も得て、総勢15人くらいになりますか、で全世帯を廻ってきました。その中で、個人の4情報を公開しても良い、と言う方が単身の高齢者で約700人いらっしゃいました。最終的には1,000人位になると思われれます。その名簿を全部電算管理して、きちんと毎年整理していくわけです。対象者の名簿が漠然とした状態だと、

実際に見守る町内会の人も疲れてしまう。これはやはりきちんとした名簿でなければならない。職員には何とか今年度中に全部の名簿を完成させて欲しい、と言ってあります。そして来年度からはその名簿をもとに、在宅でも医療を受けられるようにしていく方針です。このことは市立病院の事業管理者とも話がついておりまして、地域包括ケア病棟を整備する方向で進めています。そのような仕組みを整備していかないと、高齢者が安心して在宅ですぐすことなど出来ない、と考えています。私自身、広島先進地を見てきて勉強してきました。年数はかかるかもしれませんが、いわゆる砂川方式、ということで、恐らく砂川市でしか出来ない試みではないか。それはつまり病院があって医者が居て、市の面積が小さい、という条件が必要で、砂川市はそれを満たしている。更に3年掛けて地域の見守り制度を構築してきた。これらが在宅医療制度を可能に出来る条件なのです。砂川市を在宅医療先進地にしよう、というのが私の夢であり、それに伴い、看護師なり、作業療法士なり、職員が増えてくる、いわゆる定住人口が増えてくる。言わば市立病院は成長産業である、砂川で言えば大企業になる、というわけで、そういったことを充実させていく中で、砂川市は安心して暮らせる町だ、と思っただけのようにしたい。そうやって砂川市を将来へ向かって生き延びていかせよう、というのが私のビジョンであります。そちらの方はある程度方向性が出来てきたので私が直接関与しなくても進んでいける、という状況になってきましたから、来年からは少子化対策、定住対策の方に私がトップダウンで取組んでいこう、と考えています。こういう考えをもっているものですから、私自身があちこちの団体に出向いたり勉強しに行ったりということで、土日もびっしりスケジュールが詰まっています、休日は年間で20日間あるかないか、という状況であります。それでも何とか走り続けて、行ける所まで行ってみよう、と考えております。そのような中で市内の色々な団体とお話の出来る場を設けてきたわけで、本日も皆様にお集まりいただいたわけでありまして、皆様の色々な意見をお聞きする中で、私の政策の中に取り込んでいけるもの、すぐに取り組んだ方がいいものがあれば、どんどん取り入れて行きたい、と考えています。私は声が掛かればどこにでも出て行く、という考えでやっております。色々な意見をお聞きする中で、もちろん出来ないものもあります。打ち出の小槌を持っているわけではありませぬので、財政を悪化させてまでやってはならないこともあります。出来ないことは出来ない、ハッキリ言う時もありますのでご了承下さい。それでは皆様、本日は宜しくお願ひします。

3. 自己紹介

- ・ 福士課長より市からの出席職員を紹介
- ・ 出席者の方からそれぞれ自己紹介を受ける

○説 明

福士課長より懇談会開催の趣旨及び進め方、資料の「市民との協働によるまちづくりをめざして」について概略説明。

4. 懇談会

開始にあたり、市民活動等入門講座のワークショップで討議された起業プランについて4グループの代表から発表説明を行う。

- ① 「いそのさんち」～空家対策も兼ね、高齢者・障害者・引きこもりの方等が集い、語り合える場の提供を実現する。
- ② 「託ワン（犬）カフェ」
～単身者や高齢者が安心して外出できるよう、留守中にペットの世話をすることができるカフェを中心にしたペットサロン（交流の場）を作る。
- ③ 「NNKサロン（NNK→ねんねんコロリ）」
～高齢者の引きこもりや身体機能の低下を防ぐ為に学校施設を利用して様々な作業を行い、子どもとの交流も行う
- ④ 「スイーツネット砂川」
～スイートロードの発展と駅前の賑わいを取り戻す為に駅前の空き店舗を利用してキーショップを作る。

市長 ～ それぞれのグループの発表を大変興味深く聞かせていただきました。最初の「いそのさんち」ですね。私も職員時代によく考えさせられた問題のひとつで、高齢者の空家対策がありますね。高齢者の夫婦で夫が先立ってしまい、一人で維持していくのも厳しいし、築年数が経っていて、売るのもままならない、解体した方が高くつく、どうしたら良いのだろう、という悩みを良く耳にします。そのような家を有効活用するにはどうしたら良いのか、これは日本全国で発生している問題ですね。その解決策のひとつとして、今発表してもらった、施設としての活用が、実際に成功している先進地もあるのです。当市では、誰がどう経営するのか、という根幹問題のため、企画段階で頓挫した経過がありました。ボランティアでまかなえば良い、ということになるのでしょうか、なかなかそのボランティアの方々のモチベーションを維持するのが難しい。先進地の事例を見ますと人件費だけは行政が面倒を見る、というようなやり方だと何とかなるようですね。これは非常に根の深い問題でして、やはり皆さんの関心もこういうところに向いた

のかな、と思って聞いておりました。やはり取組んでいかなければならない問題だな、と思いました。

次の「託ワンカフェ」ですね。これは企業としてとらえて良いのでしょうか？

参加者 ～ 私は、自分の今後の仕事として進めて行きたいな、と思っています。

市長 ～ そこで仕事を得ることで、定住対策にもなる、ということなのですね。

参加者 ～ 定年退職されたような方でしたら、お手伝い程度でやって頂けるかな、と思いますし、私のように生業としてやっていけたらな、という思いもあります。

市長 ～ なるほど、改装費も見ているようですので、空き店舗を改装するのでしたら市の補助対象になる可能性もありますし、空家対策の一環にもなりますね。市内には犬などのペットを安心して預けられる場所が無い、ということなのですね。

参加者 ～ 預けるのは猫はダメなのでしょうかね？

参加者 ～ いえ、「託ワンカフェ」という名称は漬物の沢庵と語呂を合わせたのですが、実際は猫の世話をイメージしているのです。犬は比較的連れ出しが可能ですが、猫は人見知りするので、連れ出すのが難しいのですね。それで留守宅へ出向いて餌や水などの世話をしてくれる人が居ればいいな、という発想なのです。留守宅に出向くのが全然知らない人だと困るので、カフェ的な場所で動物好きな方と交流して頂いて、その中でそのような世話を相互に出来ればいいな、という思いでプランしてみました。

市長 ～ 猫を飼っているのでなかなか外に出られない、旅行にも行けない、そういう方の為に役に立ちますね。一種の引きこもり防止にもなるのかな。

参加者 ～ 事業がうまく進めば、猫以外にも犬とか、それとワニとかトカゲとか来たらどうしちゃいましょうかね（笑）その辺は検討課題ということで。

市長 ～ 市外だとペットホテルのような施設が有るようですが結構高いようです、費用が。私も犬と猫を飼っていますが知り合いに預けるのも一苦勞ですね。相互扶助のようにも思えますが、実際どれくらいの需要があるのでしょうかね。

参加者 ～ 高齢者の方ですとか、実際病院へ通うのに猫を置いて行けない、といった需要は結構見込めると思います。

市長 ～ なるほど、そういった方には有料で対応して収益を見込むわけですね。

参加者 ～ 犬とかの世話をするのに何か資格は必要なのでしょうかね？

市長 ～ 特に資格は必要ない、とテレビで見たような記憶があります。
この仕組みが実現すると、高齢者でペットを理由に外出しない人が外に出やすくなるでしょうから良いことだと思いますね。
続きまして次のグループですが、NNK、ねんねんコロリですか。学校を使ってということでしたが、一応公民館の方で同じ趣旨のものがあるのですが、やや単発的なのと地域ごとにやっている訳では無いので、なかなか根付かないのかな、という風を感じています。ふれあいセンターでも基本的に同じ趣旨の行事は実施しているのですが、やはり場所的に車のある人でないと行けない、ですとか制約が出てくるのでしょうかね。病院へ来て市役所によって、そこからふれあいセンターまでの500mが大変なんだ、という高齢者の声は良く聞きますね。

参加者 ～ 高齢者の方が少しでも元気なうちに、どこかへ出向いてもらい、その人の生きがいになっているものを生かしてあげたい、と思うのです。どこかに集まって、何とか体操、とか、いえ、それもまあ良いのですが、そういうのに留まらず、もともとその人が持っている技術や能力というのがもっといっぱい眠ったままになっていると思うのですよ。そういう能力を引き出してあげたい、と思うのです。

市長 ～ なるほど、公民館の生涯学習ですとかふれあいセンターの色々な講座とかとかぶってしまうかな、どうでしょうかね。どのような事業をやっても出てこない人は絶対出てこない、という面もありますからね。ただ、砂川市の見守り事業で聞き取りをしてきた中で、頑として拒否されたのは一人くらいだったとも聞いております。

参加者 ～ 確かに市内にはサークルもたくさんありますし、私も参加しているのですが、でもそれぞれが単発の活動なのですね。高齢者の方で色々な技術を持っている方々が集まれて、そこでお子さんとも交流して頂ける場があれば良いな、と思ったわけです。

市長 ～ 公民館でやっている高齢者の方がお手玉とかを作って子ども達と遊ぶ、という事業がかぶりますかね。ただ、公民館に出向かなければならない、という条件が付きますからね。そういった場には自分から出向く人が集まるのでしょうかね。問題は声を掛けても出てこない人、そういった方々へどう対応するか、でしょうね。

参加者 ～ 学校を利用するという発想は、それぞれの学区で事業を行うことで、地元の方が

参加しやすいように、という意味合いが強いですね。地域の方が出向きやすいと思いますし、それぞれの学校ごとに独自の事業を展開できれば尚良いかな、と思います。

市長 ～ そうですね、何より高齢者の方が参加しやすい環境を整備する、という観点が良いと思います。企業というよりボランティア的な要素が強いでしょかね。

参加者 ～ 敷地に畑を作って作物を育て、採れたものを使って食べ物を作り、子どもたちにも食べてもらう、ということもできますね。

市長 ～ なるほど。それにしてもこれから高齢者、というのはちょっと厄介な存在になっていくでしょうね。いわゆる団塊の世代が高齢者に移行していくと、それぞれ我が強い、一筋縄ではいかない高齢者が増えていくのではないかと、いう気がしますね。個性の強い高齢者が増えていくのに対応していくには、提案頂いたような独自の施設整備をやはり考えていかなければならないのかな、と。そういう観点で参考になりました。

参加者 ～ 高齢者の事ももちろん大事なのですが、この提案の中で、子どもの健全育成、ということもテーマに入れております。これは昨今の犯罪事件などを見ましても、道徳の観念が薄れてきているのかな、と。高齢者との交流を通じて、その辺に貢献できれば、という思いもあるのです。

市長 ～ 少子化の中で、高齢者と子ども達が接する場が少ないのですね。これはすぐにでも取組まねばならないテーマかもしれません。

参加者 ～ 最近も20歳位の年齢の方々と高齢者が交流する場を見たのですが、どうやって接したら良いのかわからないのですね。その辺が現実なのだと感じます。

市長 ～ 今の若い世代の方々を見ますと、間違いなくコミュニケーション能力が低下していますね。その原因は色々あるのでしょうけれど。私はハッキリとそう感じています。それが単に良いか悪いか、ということではなく、社会全体の現象だと思います。おかしい、と言ってしまって良いのか、とは思いますが。

参加者 ～ 確におかしいですよ（笑）。単語でしか喋らないから、まともにコミュニケーションが出来ない。話にならないのですよ。メールとかゲームとかはそれで良いのかもしれませんが、それでは会話が成立しない。おかしいものはおかしいです。私はそう思っています。

参加者 ～ 私は団地の老人クラブに関わっているのですが、つい先日、市立病院の看護学生が慰問に来てくれたのですね。20人くらいの学生さん達だったのですが、クラブの方々が非常に喜んでくれました。皆、いきいきと若返ったように楽しんでいましたね。私も一緒になって、学生さんが考えてくれたゲームを楽しんでいました。とても好評で、是非又来てくれ、と皆が言っておりました。我々なんか特にそうでしょうけど、孫を見ると急に元気になる、ということがありますよね。やはり高齢者のグループの中に子ども達が参加できる環境というのは必要だな、と思います。町の元気にもつながると思います。

参加者 ～ ついでなのですが皆様にもお聞きしたいのですが、私どもの町内会では冬場以外は毎朝6時半にラジオ体操をしているのです。ずっとですね。それで夏休み期間だけは子ども達がラジオ体操をしているのですが、これを一緒に出来ないか、と何度か子ども会の方に働きかけてみたのですが、良い返事をもらえない。こういったことは他の町内ではどうなのでしょうかね。こういった場でも子ども達と接することが出来ると思うのですよね。市でもあいさつ運動とかせっかくやっているのに、そこで出来た子どもたちとの接点が継続できないのですよね。こういったことはどうにかならないものですかね。

参加者 ～ 夏休みの子どもたちのラジオ体操ですね、あれは地域ごとの子ども会が主催しているはずですよ。それで父母の都合もあり、時間や日程をそれぞれ設定しているのだと思います。

市長 ～ 町内会と子ども会との関係があるので、その辺が難しいのかもしれませんが。子ども会の方は夏休み限定の事業として昔からやってきているのでしょから、町内会行事と整合性を取る、というのが、はたしてどうなのか、難しいところでしょうね。少子化もあって、なかなか子どもが集まらないで苦労している、という話も聞きますしね。

参加者 ～ 夏休み期間だけ大人の時間帯を7時に合わせてみたらいかがですか。

市長 ～ 最後にスイーツネット砂川ですね。過去にも何度か言われてきたことですが、スイートロードという、どこか一箇所にお菓子屋さんが集まっているようなイメージを持たれますが、実際には点在しています。全部のお店の商品を一箇所で楽しめるような店があれば良いのでしょけれど、現実的な話になりますが、お菓子屋さんもそれぞれライバル同士ですから、話をまとめるのは簡単ではありません。実際過去に銀行跡地に観光協会とかも含めてそのような施設の建設を検討したこともあったのですが、建物を作ることは出来るが、では実際にどうやって毎年維持していくのか、そこがネックになって実現しませんでした。ただ、駅前の

寂しい状況を改善するのにそのようなキーショップがあれば良いのかな、というアイデアはやはり出てくるのだな、と思いました。

参加者 ～ 全部の店の商品が楽しめる、というより、各店舗の紹介と試食品が揃っていて、そこから各本店に誘導できるような、そのような店舗をイメージしています。

市長 ～ なるほど。とても話が盛り上がっているところなのですが、かなり時間も押しております。ぼちぼちまとめに入りたいと思うのですが、折角高校生の方から年配の方まで一生懸命発表して頂いた成果ですので、出来ることは是非検討してみたい、という思いはあります。確かに駅前の寂しい状況は私も感じております。12号線を通り過ぎてもメインになるところが寂しいな、と思います。慈恵会病院が出来ただけであの辺の風景がガラリと変わった。最近では12号線沿いにあの規模の建物が建設されたのは他に無いと思います。大きな建物があるだけでまちのイメージもずいぶん変わるものです。ただ、他の自治体を見ますと、駅前の再開発をやったところは例外なく赤字を抱えています。地権者が複雑で、結局市がお金をかけて整備しても、借金しか残らなかった、という例ばかりですね。JRの駅にエレベーターを付けてくれという話が以前からありましたが、JRが財政難で応じなかった。市が費用を負担するから、といっても、駅のホーム全体を改修しなければならない、との理由で応じてくれない。旭川市は駅前を大々的に再開発しましたが、あれも当初の予定から3倍以上の予算をつぎ込んでいる。莫大な予算をつぎ込んで駅の改修を実施したとして、その財政的なツケだけを残して良いのか。あれがあれば良い、これがあれば良い、という話はもちろん検討しなければいけません、将来的な財政負担も考慮して考えなければならないのです。空知管内でも砂川市の財政状況は決して悪い方ではありません。市立病院や他の大企業の存在が大きいのですが、他のマイナス要因が少ない、という点もあります。よく、温泉や道の駅があれば良い、という話を聞きますが、近隣の首長さん達からはこう言われます「砂川さんは温泉も道の駅も無くて良かったですね」、と。どこも赤字なのです。ただ作ってしまった以上やめるにやめられない。全道各地に道の駅がありますが、うまくいっている所は3箇所くらいですかね。あとはどこも赤字です。結局足りない分は市の負担になるのです。作るのはいいんですけど、どうやって維持するのか、維持できるだけの利益を出せるのか、冬場はどうするのか、理詰めで説明すれば大体の人は理解してくれますが、それがわからない人はただあれば良い、という話しかしない。財政を逼迫させることが明らかな物を作ってしまったら良いのか、何かをしないという判断にはちゃんとした理由があるのです。

参加者 ～ やはり、単に行政に負担を求めるようなやり方で考えてはいけないと思います。地域交流センターから駅前、市立病院へと人が流れていく仕組みを作って、そこ

にうまくスイートロードが絡んでくる、そのような発想をしたいな、という思いもあって提案しました。

市長 ～ 皆様の意図はよくわかりますよ。その回遊策のポイントしてスバコを設置した訳です。ただあそこは場所を借りてやっていますので、いつまで置いておけるか、という懸念がある。3年間、総務省がバックアップして地域おこし協力隊を3名市外から導入した。うまく回遊できるように何とか知恵を絞ってもらっている。町なかに色々な機能が集約されると高齢者も住みやすい町になる。これからますます、恐ろしいほどの高齢化社会を迎えるわけですから色々手を打っていかなければなりませんね。

福士課長 ～ 皆様、お話も尽きないことと思います、市長もまだまだ話し足りないことと思いますが、かなり予定時間をオーバーしております。本日参加された皆様の中には、こういった場でなかなか発言できなかつた、という方もいらっしゃるかと思います。この後も私共の方に直接お伝え頂ければ、と思います。最後に全体を通して市長より一言御願ひします。

市長 ～ はい。最初に皆様の起業プランを紙で拝見した時には、一体どうなってしまうものなのかな？という思いもありましたが、実際直接話をお聞きしていると、過去に行政でも検討して、断念したこともあったが、当時と今とでは情勢が大きく変わってきていて、今考えると現状では再考の余地があるのかな、という思いを強く持たされました。本日は私にとって色々大きなヒントをもらったように思います。皆様ありがとうございました。

福士課長 ～ 入門講座と本日の懇談会を通して皆様から頂いた意見につきましては、今後砂川市が進める協働のまちづくりの参考にしていきたいと思ひます。又、まちづくりの主役は市民の皆様ひとりひとりであります。今回の講座と懇談会が、皆様が何か面白いことを始めるきっかけになることを心から期待しております。それでは以上を持ちまして本日の協働のまちづくり懇談会を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。

5. 閉 会 (20:20 終了)